

ささげ屋（東京都品川区）は、主にEC用の商品撮影・レタッチ（画像加工）・採寸・原稿作成、商品データの成型・サイト登録といった「ささげ業務」を専門に行う。創業20周年を迎え、ささげのパートナーとして多くの通販・EC事業者から支持されている。

「ささげ」とは、撮影・採寸・原稿の頭文字を取った業界用語であり、通販サイトに商品並べるための「下げ業務」にも影響を与えている。「インターネッ」の誕生と同じく、消費者が実物に触れないECにおいて、画像やサイズ表記、説明文は、購入判断の材料のほぼ全てだ。つまり、ささげは売り上げの入り口であり、その良し悪しは、ブランド価値や返品率に影響する。

例えば、画面上で見「色」が実物と異なれば、消費者は「思っていた色と違う」と返品する。ブランドのトーンから外れた説明文

扱う企業であれば、通販サイトの全商品にモデル着用画像を掲載したいところだが、モデルやスタイリスト、ヘアメイク、カメラマンの日程・ロケーション調整は大変で、何よりもコスト高になるため現実的ではない。

そこで生成AIの出番となるが、実際には生成AIは回せば回す生成する際、事実に基づかない情報や、過度に高度化は、確実にささげ業務にも影響を与えている。一方、急激なAIの高度化は、確実にささげ業務にも影響を与えている。一方、急激なAIの高度化は、確実にささげ業務にも影響を与えている。

ささげ屋

総身力でAIの生成に対応

嘘を無くし 業務負荷やトラブル回避へ

「ささげ」は、生成AIの採用費などを「結局、ささげは信頼できる外部に発注することになる」（同）と

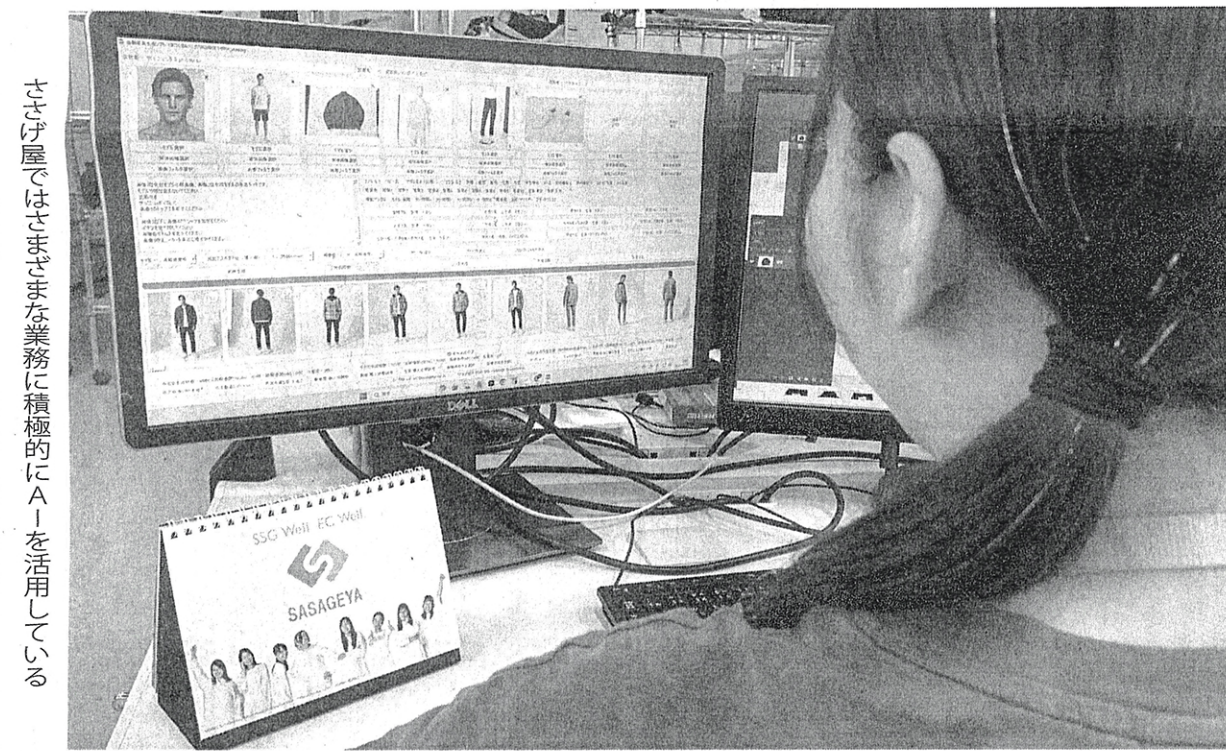
「嘘」が頻発する。生成AIの採用費などを「結局、ささげは信頼できる外部に発注することになる」（同）と

「嘘」が頻発する。生成AIの採用費などを「結局、ささげは信頼できる外部に発注することになる」（同）と

クロードの自伝プロのリアルに驚愕しながら、若手社員が「自主社員の採用と教育に30年前のブラック労働ことが狙いだ。

大学の講義や自伝ブログも

同社では近年、大学や大手企業のEC従事者を対象に、ささげ業務や社会人としての



ささげ屋ではさまざまな業務に積極的にAIを活用している



知の本場スタジオは実在した！

株式会社 ささげ屋